

瀬戸内さんと三浦環

草の実 アイ

私は、寂聴さんには、文筆家以外にも色々な顔、色々な側面があるということに感心させられている人間で、『寂聴』VOL2VOL3にはその観点で文を載せてもらいました。

今回は趣を変えて、小説を取り上げていきます。

取り上げるのは、『ここ過ぎて』と、『お蝶夫人』です。まず『ここ過ぎて』。サブタイトルは「白秋と三人の妻」。内容はサブタイトルにある通りです。寂聴時代の作品（単行本の表紙には何故か瀬戸内晴美とあります）。

白秋とは有名な詩人また童謡の作詞家で、日本にファンが多いでしょうが、この作品はどちらかと言えば有名ではない三人の妻たちの方に焦点が当たっているように見えま

す。出版社に執筆を促されて書いたということですが、取材が行き届いていて細かい事実までよくわかる小説です。

私は、旅行が好きで日本の色々な所に行きますが、過日九州大分県の長崎鼻(夕日などがきれいに見える岬)に行った時、瀬戸内さんの書いた白秋二番目の妻「江口章子」と瀬戸内さんのことを書いた立看板を見つけ、ここにも瀬戸内さんがいた、と驚きました。大分の人たちにとって江口章子さんは歌人、詩人として高く評価されているようです(江口さんの出した詩歌集もあります)。白秋の有名な歌詞の中に江口さんとの共作ではないか?とされているものもあるそうです。

江口さんのことなど瀬戸内さんが陽の当たらない女性に

まで目配りをして人々に紹介をする姿勢をお持ちなところ、素晴らしいです。この著書は瀬戸内さんの書かれたものの中で草の実が好むベスト3の中に入る1冊です。

次に『お蝶夫人』これは晴美時代の作品。お蝶夫人とは有名なプッチーニ作曲のオペラで、この書はそれを演じた日本のオペラ歌手「三浦環」の人生を描いたものです。

「三浦環」は、戦前日本で有名になった女性で名前ぐらひは聞いたことがある、という人も多いでしょう。彼女は海外で『お蝶夫人』を演じ、外国の音楽家からこれを演じて世界一などと評された人なのです。ところが日本では彼女の音楽を聴こうと思っても録音されたものが簡単には手に入らない、彼女の活躍した記録など知ろうと思っても情報が手に入りにくい、という状態でした（21世紀になってやっと you-tube などで見られるようになりました）。世界的な日本人なのに日本でそれが手に入りやすいとはおかしい、と思うのですが、昭和時代にすでに瀬戸内さんが取り上げているわけです。何故取り上げたのか？寂聴博士の竹内紀子さんにお尋ねしたいものですが、瀬戸内さんの先見性はスゴイです。

瀬戸内さんは、文筆家であって音楽家ではないので、内

容は瀬戸内さんのお得意ジャンル（と勝手に草の実が思っている）の男女関係が多く書かれています。私は音楽業の人間なので、本来音楽の人が三浦環を書くという仕事をすべきなのではないか、と思うのですが、私の知っている限り音楽の人より先に瀬戸内さんがこの仕事をやってくれました。

この書を読んだ私は、音楽をやっている人間として、「瀬戸内さん、取り上げてくれてありがとう」という気持ちになりました。

この2作は、皆にあまり注目されなかった人を取り上げ、かつ瀬戸内さんの人間をつかむ力を感じさせるものであります。草の実がVOL3で書いた、寂聴さんのプロデュース能力をやはり感じる作品でもあります。

この文の後半は、話題転換、『寂聴』VOL3の感想を述べさせてもらいます。取り上げる方の順は、生年順です。「羽地達次さん」この方の『源氏物語』との付き合い方を見て、私と同じような方がおられるのだなあ、と思いました。学校時代に古文の名作だと教わって、読んだ時には一ページ目からなんて読みにくい文だろう、と感じて読めな

かったこと、であつても気になつていつかは読んでやろうと思つていたこと、原作に至る前に源氏物語について書いた色々な方の書をのぞいたこと、そしてついに数十年後原作を読み終えたこと、などまるで私の道のと同じ（かなり似ている）ではないか、と感じ入つた次第です。もちろん原作を読んだとは言つても、私の場合現代訳を横に置きながらの読書でした。読んだ感想はこの文では書きませんが、読んだ満足感がありました。

「本田耕一さん」この方のガザへの関心の持たれ方、今の日本人の多くの方はこの方と同じようにガザに関心を持つていてのではないかと思われました。こんなに庶民が殺害されてよいのか？と。私も同じような事を思い、住居の近くの（千葉県）ガザについての講演会に行き話を聞いてきました。講演した方の名は「ダニー・ネフセタイさん」。この文ではそこで聞いた話を報告させてもらいます。

講演者の彼は、元イスラエルの兵士で、兵士にあこがれて兵士になつた方ですが、日本に来て全く感じ方考え方が変わったそうです。日本人が平和に暮らしている姿を見て最初は何てぼおつとした人たちなんだろうと思つたそうですが、日本人と付き合うにつれだんだん日本のような平和

はいいな、と変わつて来たそうです。

TVではあまり報道されませんが、イスラエルの兵士でガザを攻撃した人が自分の行動に疑問を持ち、PTSDになり結局は自殺した方の話などをしてくれました。こういう兵士は増えているそうです。その他、色々な話は聞いて良かったものでした（なおyoutubeでもこの方の話が聞けます）。

ではこうして関心を持ち講演会で話を聞いたとしても個人に何ができるのか？この答を私なりに考えてみました。個人にできる事は小さい事でありましょう。が、思つている事を言い合うだけでも何もしないより良いのではないかと考えました。

会話によつて何かが生まれる、と私は信じています。『寂聴』VOL3にもその旨を書いて載せてもらいました。とりあえず、今言える事はこれだけです。

以上、紙面を通じてのこのような交流ができるのも寂聴さんが結んでくれたおかげです、改めてこの文集に感謝。そして草の実に言いたいことがあつたら是非ともお知らせくださいませう。それをお待ちします。

以上、草の実アイ（2025・6 3作目を出版）でした。